

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.44 ◇◆
2012年4月27日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
 - ・大阪教育大学
 - 日本International Safe School 認証センター開設記念
 - 「第2回アジア・太平洋学校安全推進フォーラム」参加レポート
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
 - ・国の取組み情報
 - ・イベント情報
 - ・見どころピックアップ！
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・
5. 今月のキーワード
「3.6倍、2.8倍」

◆◆◆◆

桜の開花と共に本格的な春の訪れを感じる季節となりました。新学期、各地で防犯教室や防犯ブザーの配布等が実施され、改めて子ども達を取り巻く環境や安全を意識する機会でもあります。

子ども達を取り巻く環境の1つが学校です。本日、政府が初めて学校安全についての計画を策定し閣議決定したとの報道がなされました。中央教育審議会はこの3月に、今後5年間の施策の基本的方向と具体的な方策をまとめました。

学校安全の推進に関する計画の策定について（答申）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1318910.htm

防災や原子力災害が注目されがちですが、交通安全や防犯なども含まれたものとなっており、審議会では当領域のプロジェクト代表者2名も有識者として発表しました。

答申の中では、実証的で科学的な学校安全の取組推進がうたわれ、インターナショナルセーフスクール（ISS）などの優れた取組を推奨するとあります。ISSは、暴力や事故等に対し、安全で健やかな学校づくりを科学的・継続的に推進する活動として注目されています。今月のレポートでは、ISSに関するフォーラムに当領域のアドバイザーが参加し、その様子について寄稿してもらいました。

是非、ご覧下さい。

そして、もう1つ、子どもを取り巻く環境の中で重要なのは何と言っても家庭です。警察庁は12日、平成23年中の警察安全相談の状況について発表。児童虐待は3,694件と、過去5年間で最も多い件数となっています。

平成23年中の警察安全相談の状況について
<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/H23keisatuanzensoudan.pdf>

当領域の「虐待など意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」プロジェクトの代表者が委員長を務める日本小児科学会の小児死亡登録・検証委員会では、子どもの死亡事例を全て記録して蓄積し、データを虐待や事故の予防に活かすことを目的として、「子どもの死に関する我が国の情報収集システムの確立に向けた提言書」の作成を進めてきました。

その提言書が今月2日から、学会のホームページにて公開されています。

日本小児科学会
<http://www.jpeds.or.jp/saisin-j.html>

最後に、子どもを取り巻く環境で近年大きく注目されているのがネット空間です。特にソーシャルゲームは子どもにも爆発的な人気があります。中には、基本利用料金が無料でも、アイテムの一部が有料なものもあります。数年前からは、「ガチャ」と呼ばれるアイテムくじが導入され、欲しいアイテムを獲得するために当たるまでお金を払ってくじを引く、そのために子どもがゲームに多額のお金をつぎ込むなどの問題が指摘されていました。

この4月から大手のゲームサイトでは、未成年者の月額利用料を制限する方針を打ち出したり、実施するようになりました。しかし、年齢を偽ってユーザー登録した場合には効果は薄く、青少年への影響が甚大と指摘する報道もあります。

子どもを取り巻く環境は様々。皆さんも是非、この機会に考えてみませんか？

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

今月のプロジェクト及び領域の動きをご紹介します。まずは、プロジェクトから。

「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクトでは、News Letter vol. 7を発行しました。詳細は見どころピックアップのコーナーをご覧ください。

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトでは、昨年9月に開催した防犯まちづくり・公開シンポジウム「子ども・女性の安全・安心のために」の開催報告を掲載しました。

プロジェクトピックアップ
http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/t_yamamoto.html

年度始めということで、進行中の全プロジェクトには昨年度の成果取りまとめを領域としてお願いすると共に、残りの研究実施期間が半年間ということで、最後の年次計画について調整を行ってきました。

領域活動についても同様に、今月始めに開催した領域会議で、今年度の運営方針と計画を提示し議論しました。また、領域の終了を見据え、わかりやすく成果を発信できるよう、準備を進めています。

2. 犯罪からの子どもの安全レポート

- 日本International Safe School 認証センター開設記念
「第2回アジア・太平洋学校安全推進フォーラム」参加レポート
2012年4月14日 国際教育センター池田・さつきホール（大阪府池田市）
主催：大阪教育大学

領域アドバイザー 反町吉秀（大妻女子大学 教授）

4月14日、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター内に、「日本International Safe School 認証センター」（Japan International Safe School Certifying Center, JISSCC）が開設され、国際認証を受けました。式典と認証記念フォーラムについて報告しますが、その前に、ISSの趣旨と仕組みについて触れます。

International Safe School (ISS) は、スウェーデンのカロリンスカ医科大学に設置されている世界保健機関 (WHO) コミュニティセーフティプロモーション協働センター（以下、WHO協働センター）が中心となり、安全な学校づくりに組織的・継続的に取り組みを行っている学校に対して国際的認証が与えられる、

というしくみです。

世界ではこれまで70を超える学校がISS認証を受けています。日本では大阪教育大学附属池田小学校が2010年3月に最初の認証校となりました。この活動をWHO協働センターとともに進める機関として、世界各地にISS認証センターが開設されています。認証センターは、質の確保のため、WHO協働センターの審査の上、認証を受ける仕組みとなっています。

認証式典では長尾彰夫・同大学学長が挨拶に立ち、JISSCCが、日本における学校安全の中心機関として役割を果たす決意を語られました。K. Dalal博士（WHO協働センター、スウェーデン）、M. Vosskuhler氏（ISS創始者、Peaceful Resources Center, USA）、藤田大輔教授（同大学学校危機メンタルサポートセンター長）、長尾学長により、認証協定書の調印が行われました。

次に、第2回アジア・太平洋学校安全推進フォーラム「アジア・太平洋地域におけるISS活動の展望」が開催されました。Vosskuhler氏は基調講演で、JISSCCが、日本国内だけでなく世界におけるISS活動に寄与する科学的な専門機関として役割を果たすことへの期待を表明した後、ISS活動の理念と子どもの安全を守る上での意義を説かれました。

その後、各地の取り組み状況や効果について、シンポジストより紹介がありました。李明憲教授（東華大学、台湾ISS認証センター長）は、台湾においては特別養護学校を含めてこれまで40を超える学校がISS認証を受けていることを紹介されました。

Dalal博士は、ISS認証を受けた学校では、学校内での傷害が40-63%減少し、医療受診も平均で50%以上減少していることを紹介され、ISS活動の有効性について強調されました。井上伸一主幹教諭（同大学附属池田小学校）は、ISSとしての同小学校での取り組みを紹介しながら、生活安全、災害、交通、防犯の各領域に渡るバランスのとれたセーフティプロモーションの取り組みの必要性を述べられました。

講演の後には指定発言者として衛藤隆・日本子ども家庭総合研究所所長（日本セーフティプロモーション学会理事長、東京大学名誉教授）が、文部科学省中央教育審議会答申「学校安全の推進計画について」（本年3月）において、セーフティプロモーションの考え方を取り入れた学校安全の推進が求められ、そのモデルとなる活動としてISS活動が記載されたことを紹介されました。子どもが日々の生活の中で安全について学び自らの力にしていく活動としてISS活動を推進する意義を強調されました。

最後に、藤田センター長が、日本だけでなくアジア・太平洋地域に向けて、JISSCCが、より安全な学校づくりへの提言をしていく決意を語り、フォーラムを締めくくられました。

フォーラムを聴いて、ISSが、傷害の減少に画期的な成果を挙げているとのDalal博士の報告が特に印象に残りました。附属池田小学校事件を受けて設立された大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンターに設置されたJISSCCが、この効果的なISSの取り組みの拠点として文部科学省の支援を受けつつ活動を進めて行くこととなりました。

その重みと意義に私は深い感慨を抱きました。

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

【更新情報】

● 国の取り組み

平成23年度「イギリス・韓国における青少年のインターネット環境整備状況等調査」報告書（内閣府）
<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/index.html>

平成23年中の警察安全相談の状況（警察庁）
<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/H23keisatuanzensoudan.pdf>

自主防犯活動を行う地域住民・ボランティア団体の活動状況（警察庁）
<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/seianki20120405.pdf>

利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会
「スマートフォンを経由した利用者情報の取扱いに関するWG中間取りまとめ」
の公表（総務省）
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban08_02000073.html

平成20年改正少年法等に関する意見交換会について（法務省）
http://www.moj.go.jp/keiji1/keiji12_00053.html

特別支援教育の在り方に関する特別委員会（第16回）配付資料（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/siryu/1319244.htm

その他の取組みについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

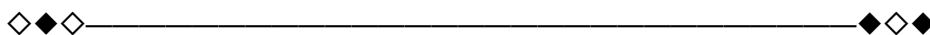
● イベント情報

5月5日－5月11日
児童福祉週間における取組みについて
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000028nj0.html>

5月12日
岡山弁護士会
「取調べの可視化実現を目指して
～甲山事件から密室取調べとえん罪のメカニズムを考える」
<http://www.nichibenren.or.jp/event/year/2012/120512.html>

6月1日・9月14日
新学術領域研究「法と人間科学」
法と心理学書による実務家研修
「市民と育む法意識：法教育の理論と実践」
「コミュニケーション弱者のための取調べ技法：
『情報収集アプローチ』の基礎（先着24名様）」
http://www.psych.or.jp/event/others/others_120411.pdf

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【見どころピックアップ！】

今月の見どころは、「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクトが発行している「News Letter vol.7」です。

同プロジェクトの活動の様子などを紹介する本News Letter。7号目を迎えた今回は、児童相談所における司法面接研修の様子や、研修参加者の声として業務における変化や気づきを紹介して下さった記事を紹介しています。

また、研修に協力してくれた子どもたちの生の意見を研修対象者にフィードバックするために実施したアンケート調査結果の概要や、法廷に子どもを出廷させる代わりに面接を録音・録画したものを提出し、面接者が証人として呼ばれた場合を想定した反対尋問のワークショップの様子や、主尋問を担当した弁護士の方の記事なども掲載されています。

是非、ご覧下さい。

→ 「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクト
「News Letter vol.7」
http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/m_naka.html

【アクセスランキング】

- ☆1位 第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム 予稿集
<http://anzen-kodomo.jp//column/kyoudou/sympo04/yoko.pdf>

- 2位 プロジェクト関与者インタビュー
携帯電話、インターネット問題の怖さを子ども見守る親の立場から伝えたい
http://anzen-kodomo.jp//pdf/ad_04.pdf

- 3位 平成22年度研究開発実施報告書
「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクト
http://anzen-kodomo.jp//reporters/reports/pdf/report2010_yamamoto.pdf

5. 今月のキーワード

「3.6倍、2.8倍」

地域で防犯活動に取り組む際に、課題としてよく聞かれるのが、若い世代の人たちとのつながりや参加についてです。最近はどのような状況なのでしょう？

今月5日、警察庁は、自主防犯活動を行う地域住民・ボランティア団体の活動状況についての調査結果を公表しました。これによると、団体数・構成員数共に増加しています。

中でも、「構成員の平均年代別団体数と年代別人口比」を見てみると、5年前の平成18年と比較して10歳代以下の団体数が3.6倍、20歳代が2.8倍と大きく増加しています。

警察庁及び都道府県警察では、大学生や短期大学生を中心とした20歳代以下の若い世代の参加促進を図る防犯ボランティア支援事業や、40歳代以下の現役世代の参加促進を図る環境づくり支援事業を実施してきました。

とはいえ、他の世代に比べれば数は多くありません。今年度は、活動の裾野を広げ、更なる質の向上を図るために、先進的な活動を行う団体の活動内容の発表、意見交換等を行うフォーラムの開催も予定されているとのこと。

当領域の「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」プロジェクトでは、各世代が使うICTツールを組み合わせ、人・世代をつなごうと取り組みを進めてきました。その中心的な地域である大阪府堺市登美丘地区の防犯委員会が平成23年度安全・安心まちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰を受賞した際には、多様な世代の参加、つながりに関心が寄せられていました。

警察庁「自主防犯活動を行う地域住民・ボランティア団体の活動状況について」
<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/seianki20120405.pdf>

警察庁「自主防犯ボランティア活動支援サイト」
<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki55/index.html>

「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」プロジェクト
http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/m_igezaki.html

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

- ▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>
- ▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2012年4月27日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
